

対談

「ICT が苦手な先生も合同遠隔授業！」

学校全体で取り組むために ICT が苦手な先生方にどんな働きかけをしたのがサンホセ日本人学校の宮本先生にきいてみましょう！

(1) ICT が苦手な先生方に ICT を身近に感じられる工夫としてどのようなことをされましたか？

常に一人一人の先生に合った、取り組みやすい環境と条件を揃えられるように心掛けています。一つ目は、ICT 機器の整備をしました。教員に一人一台 iPad を整備し、ロイノートスクールアカウント付与しました。ICT 環境が整うことで、先生方の「やってみたい！」という気持ちが今まで以上に湧いてきました。もちろん、ICT 機器を整備すれば全て上手くいくというわけではありませんが、整備することで、先生方の挑戦する気持ちを後押しすることができました。

二つ目は、教員一人一人のニーズを確認するためにアンケートをとり、iPad や zoom を使用して授業の中でどのようなことに挑戦してみたいかなどを調査しました。なかなか、口頭では言いにくいことも、アンケートで記入してもらうことで、教員が挑戦したいことを把握することができました。

三つ目は、上記で紹介したアンケートを反映させたルーブリックを作成しました。達成したい目標（具体的な技能）を可視化することで、やるべきこと努力すべきことを焦点化することができました。

四つ目は日々の実践の中で、ICT を使用する際に感じるちょっとした気づきや悩みを PMIQ シートに書いてもらいました。（表①）その際、共有ユーザーと同時編集が可能な Google スプレッドシートを使用しました。そして教員が毎朝確認するオンライン上の連絡用掲示板の隣に URL を貼り付けておくことで、全員が目を通し、書き込む体制を確保することができました。

「ICT が苦手な先生方に身近に感じられる工夫」

このように、各教員のわかったこと・課題・工夫・問いを共有することで、個人の知見が教員全体の知見となっただけでなく、それぞれが抱える課題の解決にも繋がりました。

(2) その取り組みをして、何か変化はありましたか？

全教員、zoom や iPad を日常的に使用するようになりました。それだけではなく、先生方が ICT を使用する上で挑戦したいことを反映させたルーブリックにおいて、ほぼ全員が目標を達成することができました。その後も全職員が授業や業務で iPad 等の ICT を継続して活用しています。

今年度も先生方のアンケートをもとに、昨年度のルーブリックをさらにレベルアップさせたものを作成しました。（表②）引き続き全教員が ICT を活用し、新しいことに挑戦できるような環境を作っていきたいと思えます。




対談：サンホセ日本人学校 宮本 豪先生
（担当教科：国語（中）社会（全）
図工（全）美術、道徳（中））
：AG5 研究補助員 関 温理

表①：本校の教員が記入した PMIQ シート

P (良い・分かったこと)	M (課題)	I (面白い・工夫)	Q (問い)
<ul style="list-style-type: none"> ・遠隔授業は話す・聞くの学習にはもってこいかと思えます。ただでさえ伝えづらいのでどうしたらよいかよく考えられます ・体育の授業では、それぞれ動きやすい場所です安全にできるようになってきている。このまま続けていける ・ロイロノートを使うことで、分かっているつもりの人たちが全然理解していないことが把握できます（しかも皆に公開せずに）（数学） ・中1では現在話すだけでなく、文法・熟語などを使いながら文章を書く活動に入っています。チャット機能、ロイロノートを活用して文の決まり、大文字・小文字、ピリオドなどに気を付けながら英文を書く練習をするのですが、Nさんはなかなか大文字で書き始めたり、ピリオドをつけられない状況です。しかし、Rくん、Nさんとともに線のなかに文字を書くことが苦手なのでまずはタイピングで慣れてから、実際に紙に書くのもいいのかも・・・この状況での色々今までの指導を振り返るいいチャンスだと思いました。（中1英語） ・AG5の研究テーマを踏まえて、「多様な考え方に触れる」というのをねらいとするならば、ロイロノート等の学習支援システムを使って、課題解決を図れるような学習を考えられたらいいですね。 <ol style="list-style-type: none"> ①先生または自分たちで課題設定 ②互いの意見を学習支援システムで伝える ③よりよい考えをまとめる ④まとまった考えを先生(他者)に伝える ⑤先生は次の課題へとつなげる <p>これはとても大雑把に書いてますが、たとえサンホセ日本人学校内ではなくと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭によってインターネット環境が悪くなる瞬間があり、最悪朝の会や授業に参加できないことがあった。こうした家庭への対応をどうするか。 →基本的に板書データを渡す。メール添付かロイロノート等 ・中学部数学の内容が複雑になってきた。このまま遠隔で習得させられるか不安感あり → ・見たことのない名前が待機室に入ってきたので許可しなかったが、家庭によって端末を変えているケースもある →当人の名前が分かるものでなければ基本的には入室は許可しない。その旨も伝えておく ・ロイロノートに関して、iPadで作成したスライドが、WebやAndoroidからアクセスすると、文字化けしたり形式が変わったりとうまく互換されない。 →現在はそれを考慮して、同端末で編集か、形式が変わらない型での作成で対応。やはり有効に活用するならiPadが欲しいところ ・保護者より要望「時間内に授業を終わらせてほしい」特に兄弟がいる家では間の時間に余裕がない時がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・粘土を使ったひらがな指導。止め・はね・払いなどに意識させることができた（1年生） ・交通・高低差・土地利用・公共施設の分布などの地図を共有し、それぞれの特徴を、共有への書き込みでなぞり、別の地図に重ねることで、トレーシングペーパーで重ねているように見られる。多面的な見方をさせやすい（社会） ・エクセルで作成したグラフの枠に、子どもが調べた結果を書き込ませることで、グラフデータを完成させられた（理科） →本当はグラフ用紙を配布し書き込ませたいところ ・トランプを使用した正の数・負の数ゲーム。楽しくできた（数学） ・サーキットトレーニングの実施。汗をかきながら意欲的に取り組めた（体育） ・停電→携帯のインターネット共有で対応 ・ラジカセをマイクの横に置いて音楽を流すことができる。全員で歌うとZoomが認識しないので、ホストが全員をミュートにする（音楽） ・Zoom中にロイロノートでワークシートを配布し、記入させる。その後提出してもらい、共有で互いの意見を比較。感想なども提出してもらい、ポートフォリオとして保管できる（中1道徳） 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題練習に取り組んでいる間、画面はどうしますか？（算数・数学） <ol style="list-style-type: none"> ①画面をオフにしておく ②画面をオンにして映り込んでいる ③共有画面でタイマーなどを提示しておく ④ホワイトボード機能を利用して手順を示しておく <p>→画面をオンにして映り込まないようにしています</p> <p>→①にしています</p> <p>→学級の実態に応じて、教員で判断が</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業時間になっても入室してこない子どもへの対応をだれがやるか →授業者が電話連絡。その際は子どもには自習などを指示して待ってもらおう。 ・動画を事前にダウンロードしておく方法ってありますか。 →youtubeなら、「Video Proc」というソフトが便利です。（ただし体験版だと5分まで）あとは、スクリーンショットで動画を取り込む・・・ですかねえ →iPhoneかiPadなら動画収録という機能があります ・Zoom録画が変換で失敗します。なぜでしょう・・・？ →録画しながら、一度回線を切りましたよね？それによって前半の変換が行われます。そして、その変換が終わる前に後半の変換をしようとすると失敗します。zoomのホームの画面（最初に出るやつ）から上部にある「ミーティング」→「録音済み」から再度変換をすることができるのでやってみてください

表②：先生方のアンケートをもとに作成したルーブリック。（2021 年度版）

①ICT				
S1	S2	A1	A2	観点
「iPad」や「Zoom」, 「ロイロノートスクール」を発展的に活用することができる。	「iPad」や「Zoom」, 様々なアプリケーションの機能を理解し、扱うことができる。	「iPad」や「Zoom」の機能を理解し、扱うことができる。	「Zoom」の機能を理解し、扱うことができる。	ICT操作力
<p>(S2における右記の技能に加えて)</p> <p><input type="checkbox"/>Zoomにおいて、ブレイクアウトシステムを活用することができる。</p> <p><input type="checkbox"/>Zoomにおいて、ピンスポット機能を活用することができる。</p> <p><input type="checkbox"/>Googleチャットやzoomチャットを活用して連絡がとれる。</p> <p><input type="checkbox"/>ロイロノートスクールを以下のように活用することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・画像や動画、音声データを生かした教材の作成 ・児童生徒の解答や考えの比較 ・資料箱の有効活用 ・シンキングツールの活用 <p><input type="checkbox"/>iPadにおいて、用途に合わせてアプリケーションをダウンロードし、活用することができる。</p>	<p>(A1における右記の技能に加えて)</p> <p><input type="checkbox"/>Google系アプリを以下のものから2つ以上使うことができる。 (ドライブ、スプレッドシート、ドキュメント、スライド、form、jamboard)</p> <p><input type="checkbox"/>ロイロノートスクールを以下のように活用することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業教材や課題の作成 ・資料やワークシートの配布・回収 ・解答の添削と返却  <p><input type="checkbox"/>Microsoft officアプリやEvernote, GoogleドライブやDropboxといったアプリ（または端末）間で、データのインポート・エクスポートを行うことができる。</p>	<p>(A2における右記の技能に加えて)</p> <p>iPadにおいて</p> <p><input type="checkbox"/>カメラ機能やスクリーンショット、画面収録を使える。</p> <p><input type="checkbox"/>メモ機能を使用することができる。</p> <p><input type="checkbox"/>アプリをインストールできる。</p> <p><input type="checkbox"/>Air Dropでデータの受け渡しができる。</p> <p><input type="checkbox"/>PDFなどを取り込んで使用することができる。</p> <p><input type="checkbox"/>ZoomでiPadの画面をミラーリングすることができる。</p> <p><input type="checkbox"/>Applepencilを使って書き込みをすることができる。</p>	<p><input type="checkbox"/>チャットでメッセージを送ることができる。</p> <p><input type="checkbox"/>ホワイトボード機能を使える。</p> <p><input type="checkbox"/>参加者に対しての、ミュートや共有への書き込み、チャットなどのアクセスコントロールができる。</p> <p><input type="checkbox"/>画面共有を行い、動画や写真、教材などを参加者に見せることができる。</p> <p><input type="checkbox"/>ホストとしてミーティングを開いて入室させ、他のミーティングに入室したりすることができる</p> <p><input type="checkbox"/>画面のオン・オフができる</p> <p><input type="checkbox"/>「反応」ボタンで反応ができる</p> <p><input type="checkbox"/>名前を変えることができる</p> <p><input type="checkbox"/>背景を変えることができる</p>	具体的な技能